

令和 4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	193 働く婦人の家維持管理事業					
予算科目	01-050101-11 働く婦人の家施設管理運営に要する経			担当部課	市民部働く婦人の家	
市長公約				係名		
戦略プラン				新規・継続	継続	
				事業分類	自治事務（任意）	
				事業体制	一部委託	
個別計画				事業期間	毎年度	
根拠法令等	つくば市働く婦人の家条例			SDGs	11住み続けられるまちづくりを	

事業の概要

対象	
目的	つくば市の女子勤労者及び勤労者家庭の女性とその支援者のための福祉増進を図る。
概要 (取組内容)	つくば市の女子勤労者及び勤労者家庭の女性などの休養・レクリエーションの場と機会を提供する施設、並びに災害時の指定避難所としての施設の維持管理。

コストの推移

項目			令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	
事業費	予算額	(千円)	6,494	28,882	6,269	14,992	6,522	
	決算額	(千円)	5,763	26,095	6,105	0	0	
	内訳	一般財源	(千円)	5,730	8,562	6,072	0	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	0	17,500	0	0	0
		その他	(千円)	33	33	33	0	0
人件費	人件費計	(千円)	4,080	4,100	4,086	4,086	4,086	
	内訳	正職員従事割合	(人)	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
		正職員時間外勤務	(時間)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		会計年度任用職員有無	(-)	有	有	有	有	有

市民参加の取組状況

共有、理解	
企画・立案、計画	
実行	
評価、検証	

指標の推移

1	指標名	施設利用者数 (人)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	8,800.0	8,800.0	8,800.0	8,800.0	8,800.0	8,800.0
	実績	8,042.0	4,224.0	4,862.0	8,151.0	0.0	0.0
	指標の概要						

2	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内駐車場が一部未舗装のため、駐車場アスファルト整備を実施するための設計委託をした。 職員及び施設利用者ともに、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底した。 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場アスファルト整備の設計委託により、次年度工事へ進めることができた。 (施設利用者または指定避難所開設時の避難者へ快適な利用空間を提供できることにつながった) 感染症予防対策を徹底したことにより、必然的に利用者の意識も高まっていった。 	
課題	業務	年度後半からの光熱費高騰対策として館全体のLED化をしていく過程で、予算確保を含み設計と工事で2年度以上を有する。最短で施工できるよう関係各課と協議していく必要がある。
	組織、予算等	特になし
改善目標	敷地内駐車場アスファルト整備工事を実施や、光熱費高騰対策として電気のLED化の検討等、施設利用者または指定避難所開設時の避難者へ快適な利用空間を提供する。	

評価

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	5	市が直接担うべき事業である。
優先度	3	市民ニーズや市民生活への影響等を鑑みて、継続して実施する必要がある。

方向性

方向性	継続
理由	開館から32年が経過し施設の老朽化は防げないところですので、今後も施設の小規模な修繕が見込まれると思います。

令和 4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	194 働く婦人の家自主企画事業					
予算科目	01-050101-11 働く婦人の家施設管理運営に要する経			担当部課	市民部働く婦人の家	
市長公約				係名		
戦略プラン	II-2	2	1	生涯にわたる学びの場の推進	新規・継続	継続
					事業分類	自治事務（任意）
					事業体制	職員のみ
個別計画				事業期間	毎年度	
根拠法令等	つくば市働く婦人の家条例			SDGs	11住み続けられるまちづくりを	

事業の概要

対象	市民
目的	つくば市の女子勤労者及び勤労者家庭の女性とその支援者のための福祉増進を図る。
概要 (取組内容)	市民への学習機会の提供のため、市民ニーズに応じた講座等を企画し参加募集を行う。応募者多数の場合は、抽選のうえ受講者を決定して講座を実施する。

コストの推移

項目			令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	
事業費	予算額	(千円)	364	364	375	375	375	
	決算額	(千円)	357	357	375	0	0	
	内訳	一般財源	(千円)	282	275	277	0	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		その他	(千円)	75	82	98	0	0
人件費	人件費計	(千円)	2,772	2,926	2,724	2,724	2,724	
	内訳	正職員従事割合	(人)	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
		正職員時間外勤務	(時間)	21.00	79.00	0.00	0.00	0.00
		会計年度任用職員有無	(-)	有	有	有	有	有

市民参加の取組状況

共有、理解	
企画・立案、計画	
実行	
評価、検証	

指標の推移

指標名	講座受講者数 (人)					成果指標
	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
1 目標値	800.0	800.0	800.0	800.0	800.0	800.0
実績	607.0	267.0	319.0	438.0	0.0	0.0
指標の概要	【新型コロナウイルス感染症対策】R1年度：3月の講座を中止 R2年度：募集定員を減らして開催 R3年度：募集定員を減らして開催 R4年度：募集定員を減らして開催					

2	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから高齢者まで、全世代を対象とする講座を開講した。 市民が受講しやすい休日の講座を開講した。
成果	積極的な広報活動により、館の知名度も上がり、市内全域からの応募があった。
課題	<p>業務</p> <p>生涯学習の一環として、女性向けの講座以外にも、老若男女を問わず全世代が楽しめる講座を展開しているが、講座から新規サークルに発展するケースが少ない。</p> <p>組織、予算等</p> <p>特になし</p>
改善目標	積極的な広報活動を継続し、子どもから高齢者まで全世代が楽しめる講座を企画していく。

評価

市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	5	市が直接担うべき事業である。
優先度	3	市民ニーズや市民生活への影響等を鑑みて、継続して実施する必要がある。

方向性

方向性	継続
理由	女子労働者の福祉の向上を図ることに加え、生涯学習の一環として、老若男女問わず全世代を対象とする講座を継続して開講していく必要がある。